

納入事例

株式会社 Zepp ホールネットワーク様 ライブホール Zepp 国内全店

DiGiCo の Quantum 338 が Zepp 国内全店で活躍

視認性、プロセッシング性能、音質、外観、すべてで高い評価を獲得

ライブハウスの延長線上にある“ライブホール”をコンセプトとする Zepp (株式会社 Zepp ホールネットワーク様)。1998 年にオープンした Zepp Sapporo を皮切りに、国内 9 か所、海外 2 か所に展開し、多くのトップアーティストがライブを行う人気のホールです。この度、Zepp の FOH ミキサーとして、国内の全店舗に DiGiCo の新型コンソール Quantum 338 が導入されました。機材の選定責任者で保守管理を担当されている株式会社トゥ・ミックスのサウンドエンジニア上野功太さんに選定理由や音質、操作性などのお話をうかがいました。(取材撮影場所：Zepp Shinjuku)



■全国的に展開している Zepp ですが、最初に共通の特徴をお話いただけますか？

上野 特徴は「ライブハウスの延長線上にある小屋」という考えのもと、「ライブホール」という名を付けていることですね。つまり大型のライブハウス。スタンディングも S 席使用もできるという形で、各地によってキャパシティは異なりますが、2,000 名前後となります。また、海外では台湾とクアラルンプールに、やはり同じようなキャパシティのライブホールを展開しています。

また Zepp はライブハウスの延長ですから、必要な機材が置いてある形式の小屋です。メインスピーカーもあれば、FOH 卓、モニター卓もある。マイクやケーブルも揃っています。特に音響部分は全国で同等スペックの機材を揃えていますので、Zepp ツアーの場合はご利用される方々にほぼ同じ機材環境を提供できている点が大きな特長です。今回の FOH 卓の更新でも、改めてこの特長を維持できたことは嬉しいですね。



▲インタビューに応じてくださった上野功太さん

Zeppの会場は1998年4月のZepp Sapporo開業がスタートで、それから全国各地に造っていき、現在は国内では9店舗のライブホールを展開しています。そしてここZepp Shinjukuが2023年4月にオープンした一番新しいZeppライブホールとなります。

■ Zepp Sapporo が最初とのことですが、FOH卓は何を使っていましたか？

上野 当時は他社のアナログ卓でした。その後Zepp Sapporoは2013年にデジタル卓のDiGiCo SD8へと以降しましたが、DiGiCoの導入はそれ以前の2009年のZepp Tokyoの機材更新が最初で、Zepp Osakaも同時に更新をしています。それから徐々に、全店SD8へと更新していきました。

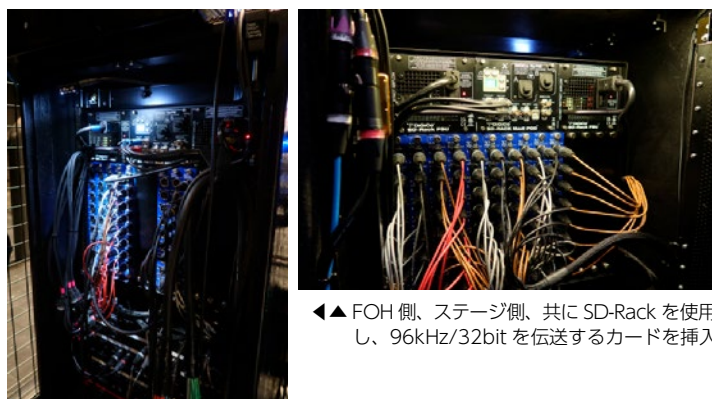
■ DiGiCo SD8 を聴いた印象はいかがでしたか？

上野 当然、アナログ卓と比べてクリア。かつイギリスらしい音をとても感じました。低域から高域までよく伸びて聴こえ、音楽的な要素が含まれているような気持ちの良い音です。フラットな音というよりも魅惑的に色付けされた感じで、DiGiCoでなければ出せない音をしていると思いますね。

また、昔のアナログ卓より少し小さいサイズながら、36フェーダー+マスターフェーダーとフェーダー数が充分にあった。そこも決め手の1つです。フェーダー数が多いとオペレートしやすいですからね。

■ SD8 導入後、ステージラックのMaDi Rack を替えられたそうですが、その理由を教えてください。

上野 7年くらい前に、ヒビノインターサウンドさんからMaDi Rackがディスコンになりさらに性能の高いSD-Rackになるという情報があったのと、32bitカードが登場したということで全国のZeppに導入しています。



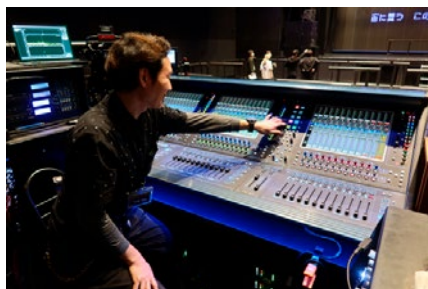
◀▲ FOH側、ステージ側、共にSD-Rackを使用し、96kHz/32bitを伝送するカードを挿入

■そして、Quantum 338の導入に至るわけですね。

上野 はい。このZepp ShinjukuのオープンにあたりQuantum 338を導入しました。新宿に新しいライブホールをオープンする時にどの卓を選択するか。実はSD10にするという話もあったんです。でも、新機種が入っている事も売りになると考えて、2020年に発表されたQuantum 338の導入を強く推しました。日本でQuantum 338を導入しているライブホールは、当時まだありませんでしたので。また、保守年数を考えても、新機種のほうが有利です。そして他店舗への入れ替えも、まさに今年が(2023年)ベストタイミングであると判断し、8月から9月にかけて、全Zepp、、、つまり他8店舗のコンソールも、SD8からQuantum 338へと一気に入れ替えを行いました。Zeppの音響機材の更新としてはまさに新時代へと突入した感じです(笑)。

■ SD8 と Quantum 338 と比較すると当然スペックはアップしています。実際に使用した感触はいかがですか。

上野 SD8と比べてみて、良いことづくしですね。まずタッチスクリーンが3つに増えました。しかも、その画面の隣にツマミがあるので、オペレーターがどの位置でも操作できる。言ってしまうと、オペレーター2人でも同時作業ができます。



他には上位モデル譲りの新機能。新しいアルゴリズムとなったチャンネルストリップ Mustard Processing、プラグイン・エフェクターを挿すみたい感覚で使える Spice Rack というエフェクター・シリーズがあり、Chilli6 と Naga 6 がラインナップされています。音の表現力は増しましたし、プラグインを使わなくても、今まで以上に音が作りこめるという感じですね。そして、なんといっても一番わかりやすいポイントは、かっこいい (笑)。マイナス点はほとんどありませんね。

■ サーフェイスがかっこいいことは、意外に重要なポイントですよ。

上野 そうなんです。特に Quantum 338 は、他の卓と比べて LED がカラフルなのも特長ですね。絶妙な色加減の黒系色のボディカラーに LED が映えます。Zepp Shinjuku は、場所柄、海外からのお客さんが多いのですが、ホール全体と合わせて卓も撮っている人をよく見かけます。心を引きつけるデザインなのだと思いますね。

■ Mustard Processing や Spice Rack は、よく使われている機能ですか？

上野 Zepp は乗り込みオペレーターなので、そこまで手の届くオペレーターと、今まで通りの使い方をするオペレーターに分かれます。

■ 上野さんご自身が、便利だと感じる機能はありますか？

上野 Spice Rack です。効果をディスプレイでも確認できるので、プラグインを使った感じに近い。そこはわかりやすいです。

■ Quantum シリーズの特有の機能 (Mustard Processing や Nodal Processing、Spice Rack の Chill6 など) はどのように活用していますか？

Mustard Processing :

SD シリーズに入っていたチャンネルストリップに追加可能な新たなプロセッシング機能。EQ やコンプレッサー、Tube プリアンプシミュレーションなどが入っているため、今までと違う音色を創造可能。

Nodal Processing :

すべての AUX センドに入力チャンネルと同等の EQ やダイナミクスを割り当てられるプロセッシング機能。

Spice Rack :

内部の FX とは別に追加される高機能プロセッシングで、現在 Chilli6 と NAGA6 を用意。

上野 Spice Rack は、マスターに入れておくか、ボーカルのどちらかに挟んで使うことが多いですね。ボーカルに対して、余分な所のみダイナミクスでカットしたい時、もちろんこれまでの Dynamic EQ や Multi-Band Dynamics でも行えますが、Spice Rack ではリアルタイムにグラフィックで見えますからね。また、ライブは大音量になりますから、耳に痛いところをカットするためにマスターに挟んで使うこともあります。

Mustard Processing は、操作を覚えればとても扱いやすいと思います。私は Mustard Dynamics をオペレーターさんに説明する時、音の変化が一番わかりやすいオプティカル・コンプレッサーをおススメしています。

■ SD8 と Quantum 338 との音質の違いについてはいかがですか？

上野 内蔵クロックにした事も大きいかもしれませんが、よりミッドの温かみが増しています。Quantum 338 本来の音色が出ているのだと思います。音のスピード感は 96kHz なのでそこまで変わっていません。

実はステジラックは SD8 時代と同じ I/O カードなので、音はあまり変わらないんじゃないかなと思っていました。しかし、Processing の違いなんでしょうね。音は明らかに良くなりました。

■ Quantum Engine になって、EQ やコンプの効きはより自然になりましたか？

上野 自然というよりも、押し出し感、音のヌケ感に違いがありますね。

■ 機材更新した Zepp に Quantum 338 を導入してから、JBL スピーカーのチューニングは変わりましたか？

上野 これはびっくりしたことです。今までは Zepp ごとに JBL のラインアレイは調整するポイントが異なっていたんです。それがほぼ同じになりました。どの Zepp でも聴いた質感が同じ、かつグレードが上がりました。

■ それはどんなことに起因すると思われますか？

上野 出音が素直だから、スピーカーのポテンシャルが発揮されたということかもしれないですね。

■ Zepp さんの Quantum 338 のマクロ (ショートカットキーのような機能) を教えてください。ユーザーさんはすごく知りたいところだと思うんです。

上野 どうぞご自由に見てください (右写真参照)。

■ Quantum 338 のマクロはボタンに、何を選択しているのか表示されるようになりました。

上野 SD8 では、ボタンの下にドラフティングテープを貼って書き込んでいました。それが表示されるようになったので、そこも便利になったところです。



▲Zepp Shinjuku にある Quantum 338 のマクロ。テキストだけでなく、色を変えることもできる

■ オペレーターの反応はいかがですか。

上野 音の違いは、オペレーター全員が気付きますね。また、コンプの掛かり具合や EQ の掛かり具合に違和感がないという声もあります。Zepp をよく使うオペレーターは、SD8 で作ったデータをコンバートしている方が多いのですが、コンソールが変わっても移行しやすかったと言っていますね。また、新しい Mustard Processing は、SD8 で作り込んだ EQ プラス Mustard Processing の EQ とダブルで使えますので、かなり緻密に追い込めるようになりました。それだけでも便利になったという人が多いですね。また、私はオペレーターに「Mustard Processing の EQ を使うと音が良くなりますよ」とも伝えるんですね。これも確かに音が良い意味で全然違う・・・と、皆さんすぐ気付きますね。

■ Dante カードは録音に使用されているんですか？

上野 いいえ、サブミキサーに搭載している Dan Dugan のオートミキサー機能と繋がったからです。オートミキサーは企業イベントや、いまはアイドルのコンサートでも使われるようになってきていて、ある意味でマストな機能なのです。また、Dante の将来性にも期待していて、例えば乗り込みオペレーターさんの何かと接続したいという要望にも応えられます。

■他に I/O 周りで良かったポイントはありますか？

上野 UB MADI 端子はとても便利です。ちょっとしたプレイバックや、Mac があればドライバーなしで 48ch 録音ができる。しかも、出力を 48kHz/24bit に変換してくれますので、そこが便利という人は多いです。96kHz で 48ch だとすごく容量が増えますから。そういう手軽さもあります。最初は使うのかな？ と疑問に思っていたんですけど、こんなに使えるとは思ってもみませんでした。



▲Quantum 338 のリアパネル

■終わりに、DiGiCo に期待している事をお話いただけますか？

上野 インターナルのエフェクターですね。もうちょっと効きの良いリバーブを期待しています。外部ハードウェアのリバーブの必要性がなくなるような。特に Slate Digital の リバーブが導入されることを期待しています、あれが卓に入ってくれたらすごく嬉しいです。

■ちなみに DiGiCo は Spice Rack 機能がバージョンアップでエフェクターが増えると公表しています。

上野 さらに香辛料の名前が増えていくのでしょうか（笑）

■ DiGiCo が Spice Rack と名付けた理由は「MIX に Spice を」なのだそうです。

上野 ユーモアがありますね（笑）。新しいコンソールなので、今後のアップデートに期待しています。

ありがとうございました。

■各 Zepp ホールの皆様



Zepp Sapporo

所在地：〒064-0809 北海道札幌市中央区南 9 条西 4-4
Tel：011-532-6969
URL：https://www.zepp.co.jp/hall/sapporo/



Zepp Shinjuku (TOKYO)

所在地：〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町 1-29-1
東急歌舞伎町タワー B1F-B4F
Tel：03-6380-3741
URL：https://www.zepp.co.jp/hall/shinjuku/



Zepp Haneda (TOKYO)

所在地：〒144-0041 東京都大田区羽田空港 1-1-4
HANEDA INNOVATION CITY ZONE H
Tel：03-6671-7542
URL：https://www.zepp.co.jp/hall/haneda/



Zepp DiverCity (TOKYO)

所在地：〒135-0064 東京都江東区青海 1-1-10
 ダイバーシティ東京プラザ
 Tel : 03-3527-5256
 URL : <https://www.zepp.co.jp/hall/divercity/>



KT Zepp Yokohama

所在地：〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 4-3-6
 Tel : 045-285-3311
 URL : <https://www.zepp.co.jp/hall/yokohama/>



Zepp Nagoya

所在地：〒453-0872 愛知県名古屋市中村区平池町 4-60-7
 Tel : 052-541-5758
 URL : <https://www.zepp.co.jp/hall/nagoya/>



Zepp Osaka Bayside

所在地：〒554-0031 大阪府大阪市此花区桜島 1-1-61
 Tel : 06-7174-8553
 URL : <https://www.zepp.co.jp/hall/osakabayside/>



Zepp Namba (OSAKA)

所在地：〒556-0012 大阪府大阪市浪速区敷津東 2-1-39
 Tel : 06-6630-8533
 URL : <https://www.zepp.co.jp/hall/namba/>



Zepp Fukuoka

所在地：〒810-8639 福岡県福岡市中央区地行浜 2-2-1
 Tel : 092-517-5599
 URL : <https://www.zepp.co.jp/hall/fukuoka/>